

国語科学習指導案

授業者 鳥羽 淳志

- 1 日 時 平成28年1月21日(木) 13:10~14:00
- 2 学年・学級 第7学年3組 男子16名 女子14名 計30名
- 3 場 所 7年3組教室
- 4 単元名 原文にあったリライト作文を創ろう ～少年の日の思い出～
- 5 単元について

<p>単元観</p> <p>本単元の目標として、中学校学習指導要領国語編では「目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。」と示されている。</p> <p>既習事項として、小学校国語科では、第6学年までに「登場人物の相互関係や心情・場面についての描写をとらえること」を学習している。</p> <p>以上の学習を基盤に、本単元では、「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」(C 読むことウ)を学習することを第一のねらいとしている。</p> <p>本単元で使用する教材は、全4場面構成されている。一人称型の物語文であり、場面ごとの人物の心情の描写、及び心情に合わせた情景描写などが直接的・間接的に表現豊かに描かれている。</p> <p>また、主人公の年齢が生徒と同年齢に設定され、生徒にとって共感しやすく、心情の想像もしやすいと考えた。</p>	<p>児童・生徒観</p> <p>(1) 学力の定着状況について</p> <p>1学期の定期検査テストにおける心情の読み取りに関する根拠を示した記述問題において、学年全体で正答率が25.4%であった。多くの生徒は心情については押さえているが、その根拠となる描写の提示の不足やまとめ方が不十分な準正答が43.2%であり、無解答は18.3%であった。長文が読み取ることが難しい、もしくは心情とその根拠となる描写を適切に結びつけ、簡潔にまとめる活動に苦手意識や課題があると考えられる。</p> <p>(2) 説明力の取組との関連</p> <p>根拠や理由を明確にして答える問題を実施したところ、2学期は通過率が48.4(準通過率73.6)%, 無答率は6.6%であった。</p> <p>本学級生徒の傾向としては、根拠を示しながら、内容を簡潔にまとめて答える形式の記述に慣れていない、あるいは苦手意識があると考えられる。</p>
<p>指導観</p> <p>(1) 指導方法の工夫</p> <p>指導にあたっては、次の点に留意したい。まず、物語文の読解の柱は、登場人物の心情を読み取ること、行動とその理由を関係づけ押さえることにある。これまでの学習を振り返りながら、読解の柱の一つである心情の読み取り方について復習し、心情を直接示す語句からだけでなく、人物の表情や行動の描写にも表現されていることを、再確認することで、読解の視点を明らかにする。次に、単元を通して、初発の読み際には、心情の理解につながる心情描写・表情描写・行動描写に線引きをさせながら読ませることで、心情理解の根拠となりうる部分を意識させる。更に、単元を貫く言語活動として、「リライト作文」を設定する。自らが作家となり、物語文を作成することを最終目標とすることで、自分の描きたい人物の心情の描き方を学ぶ必要感を持たせることができる。その際に、原文の内容にあったものであることを必要条件とし、最終課題とすることで、主人公についてだけでなく、原文内のリライトしようとする人物についての描写もふまえた深い読みをさせたい。</p> <p>(2) 説明力の取組との関連</p> <p>本単元では、説明力を育成するために、ロボットチャートを使用し、「心情の読み取りとその根拠となる描写」について自分の意見と他の人の意見を互いに説明しあい、比較することで、根拠の妥当性や適切な心情表現について考えさせる。活動を通して、生徒は、根拠を示した自分の心情の読み取りを他者に説明することとなる。説明の手立てとして、話形のひな形を単元の始めに示し、単元のゴールとして意識させ、学習の定着の一つとして、説明力の育成を図る。</p>	

6 単元の構想

本単元の目標

〔国語への関心・意欲・態度〕

目的や意図に応じ、文章を読み、内容や要旨を的確に捉えて、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。

〔読むこと〕

場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てている。



本単元で活用する既習事項・小中の連携

- 物語文「注文の多い料理店」物語構成や表現の工夫を考えながら読む（小5学年）
- 物語文「海のいのち」登場人物の心情や場面、相互関係について叙述について読み取り、物語の主題や優れた叙述について自分の考えをまとめる。（小6学年）
- ◎物語文「さんちき」場面の様子や登場人物の思いに着目して、文章の構成をとらえ、内容を読み取る。（中1学年）



単元の評価規準		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語文化と国語特質に関する事項
・目的や意図に応じ、文章を読み、内容や要旨を的確に捉えて、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。	・場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てている	・事象や行為などを表す多様な語句について理解し、関心を持つことができている。



本単元において育成しようとする説明力・自己有用感とのかかわり

本単元では説明ツールをもとに「交流」場面でお互いに考えを伝え合う活動を取り入れることは説明力の育成につながる。また、「交流」場面で、友達とかかわりお互いの考えを伝え合い認め合う活動は自己有用感の育成につながる。



指導と評価の計画						
時	学習内容	評 価				
		関	読	言 語	評価規準 (評価方法)	説明力・自己有用感 の評価(評価方法)
1	○単元のめあてを確認し、 学習への意欲を持つ。 ・新出漢字や読解に必要な 語句の意味を確認する。 ・第1場面から物語の登場 人物や人間関係の設定を 読み取る。	○			(読) 登場人物の設 定や人物の関係を読 み取る事ができてい る。	他者とのかかわり の中で、クラスに貢 献している意識を 持ったり、他者の貢 献を認めたりする ことができる。
2	○第1場面の登場人物の行 動やしぐさの理由となる 心情を読み取る。 ・登場人物「彼」の行動の 理由を読み取る。		○	○	(読) 人物の行動に 着目し、その理由が 説明できる。 (言) 心情を表す語句 を活 用し心情を説明 できる。	
3	○第2場面の「僕」の蝶や 蝶の収集への想いの強さ を読み取る。		◎		(読) 主人公の収集 への熱意を説明でき る。	
4	○第2場面「僕」の「エー ミール」への心情を読み 取る。 ・「僕」と「エーミール」の 違いを整理しまとめる。 ・「青いコムラサキ事件」を 通した「僕」の「エーミ ール」への気持ちの変化を 読み取る。		◎		(読) 主人公とエーミ ールの立場・環境の違 いや主人公のエーミ ールに対する見方を 説明できる。	(説明力・自己有用 感) 主人公とエーミ ールの立場・環境の 違いや主人公のエ ーミールに対する 見方を説明できる。 自分の考えを伝え 合い、友達の考えを 認め合うことがで きる。 (ワークシート・観 察)
5	○第3場面(前半)の「僕」 の心情変化を描写を根拠 に説明する。		○		(読) 主人公の心情変 化を時系列に合わせ て、描写表現を根拠に して説明することが できる。	(説明力・自己有用 感) 主人公の心情変 化を時系列に合わ せて、描写表現を根 拠にして説明する ことができている。

					自分の考えを伝え合い、友達のことを認め合うことができる。 (ワークシート・観察)
6	○第3場面の(後半)「僕」の心情変化を描写を根拠に説明する。 (本時)		◎	(読) 主人公の心情変化を時系列に合わせて、描写表現を根拠にして説明することができる。	(説明力・自己有用感) 主人公の心情変化を時系列に合わせて、描写表現を根拠にして説明することができる。 自分の考えを伝え合い、友達の互いの考えを認め合うことができる。 (ワークシート・観察)
7	○第4場面の「僕」の心情とその描写を読み取り、作品の伏線について考える。		○	(読) 物語全体の構成について着目し、作者の工夫を説明できる。	
8	○第3場面・第4場面をエーミールの視点からリライト作文をする。	○	○	(関) 描写表現を工夫し、原文に則った文章を書こうとしている。 (読) 原文の内容に即した、文章を書くことができる。	



単元の説明力問題

次の課題を、本時を参考にしながら記述させる。

第4場面 エーミールへの謝罪～終末までの心情の変化を根拠となる描写をあげて説明しなさい。

7 本時の学習

本時の目標

主人公の心情変化を時系列に合わせて、描写表現を根拠にして説明することができる。



めあて

第3場面の「僕」の心の変化を、根拠となる部分を示して、説明することができる。



ハイライトとなる交流場面

状況変化ごとの主人公の心情について、グループで交流する場面で説明ツールを活用し、根拠となる描写表現をあげながら説明をする。



本時のめざす生徒の姿 (例)

初めは「満足感しか感じなかった」という描写から『欲しかったものが手に入った』という満足感だった。つぎに「盗みを犯した下劣なやつ」や「見つかりはしないかという恐ろしい不安」、「びくびくしながら擦れ違う」「胸をドキドキさせ、額に汗をかき落ち着きを失い自分自身におびえる」という描写から、『盗みをした』という罪悪感と『冷たい気持ちと見つかりはしないか』という不安と恐れを同時に感じて動揺して緊張し、最後は、「泣かんばかりだった」や「繕うことなんか思いもよらなかった」という描写から『もう元通りにできない』という絶望感に変わった。

8 本時の展開

展開	学習活動	形態	○指導上の留意点 ●努力を要する状況と判断される 児童生徒への手だて	評価規準 (評価方法)
見通しをもつ	1 既習事項の復習をする。(2分) ・心情描写の読み取りの根拠となる部分を確認する。 2 本時のめあてを把握する。	全体	○前時の学習を振り返り、心情のとらえ方を確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・心情を直接表す語句 ・行動描写 ・表情描写 </div>	
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ≪めあて≫ 第3場面の主人公の心情の変化を根拠を示して説明できる。 </div> 3 前時の学習(第3場面前半最後の「僕」の心情)について振り返る。(3分)		○生徒を指名し、前時の学習で使ったロボットチャート又はワークシートを活用し、説明させる。 ○第3場面前半の最後は、「満足感」であることを確認する。	
自分の考えをもつ	4 第3場面最後の場面の心情を読み取る。(10分) 【予想される生徒の反応】 ≪根拠≫ ・どんな不幸が起こったかを知った。 ・泣かんばかりだった。 ・繕うことなんか思いもよらなかった。 ≪心のつぶやき≫ 『もうどうやっても元に戻すことはできない』 ≪心の状態・心情≫ ・後悔・悲しみ・絶望感 5 第3場面後半の「僕」の心情や心の状態変化を説明する	個別	○根拠となる部分に線引きさせながら読ませる。 ・心のつぶやきと心情キーワードを記入する。 ●文中に直接心情を表す言葉はなく、描写をもとに想像する必要があることをつたえる。 ○ワークシートの最後の中心となる心情は、「絶望感」であることを押さえる。	

	ルにまとめる。 (10分)		○「満足感」から「絶望感」へと変化するまでの僕の心情を根拠・心のつぶやきとあわせて、説明ツールにまとめさせる。	
考えを交流する	6 班で交流し、根拠・心情・について意見をまとめる。 (10分)	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ●心情・心の状態一覧表を用意し、思考の手立てとする。 ○交流の際には、次のことをする事を指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して、根拠を追加・削除したい時は、上欄に赤で記入・削除する。 ・班の最終的な心情の変化の読み取りを心情キーワードを使って下欄に図式化する。 ●説明の仕方マニュアルを配布し、説明ツールと合わせて当てはめながら話すことを促す。 	(説明力・自己有用感)(読)主人公の心情変化を時系列に合わせて、描写表現を根拠にして説明することができる。 (ワークシート・観察)
	7 説明ツールをもとに主人公の心情の変化について交流する。(10分)	全体	<ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの班を指名し、説明ツールをもとに全体で説明させる。 ○全体で確認した心情変化をワークシートに記入させる。 ○聞き手は、根拠してあげた描写・心のつぶやき・心情キーワードを自分のまとめと比較しながら聞くことを指示する。 	

振り返る	<p>8 本時の振り返りを する。(5分) (ペアトーク) 第3場面ワークシ ート後半の主人公の心 情の変化を説明ツ ールを使って、自分 なりの言葉で説明 する。</p>	個別	<p>○聞き手は、根拠となる描写・心のつ ぶやき・心情キーワードを自分のま とめと比較しながら聞くことを指示 する。(ピア・フィードバック)</p>	
	<p>《振り返り》(生徒に予想される反応)</p> <p>①初めは「満足感が感じなかった」という描写から『欲しかったものが手に入った』という満足感だった。②つぎに「盗みを犯した下劣なやつ」や「見つかりはしないかという恐ろしい不安」、「びくびくしながら擦れ違う」「胸をどきどきさせ、額に汗をかき落ち着きを失い自分自身におびえる」という描写から、『盗みをした』という罪悪感と『冷たい気持ちと見つかりはしないか』という不安と恐れの気持ちを同時に感じて動揺して緊張し、③最後は、「泣かんばかりだった」や「繕うことなんか思いもよらなかった」という描写から『もう元通りにできない』という絶望感に変わった。</p>			

9 板書計画

○黒板

<p>振り返り ③初めは「満足感しか感じなかった」という描写から『欲しかったものが手に入った』という満足感だった。④つぎに「盗みを犯した下劣なやつ」や「見つかりはしないかという恐ろしい不安」、「びくびくしながら擦れ違う」「胸をどきどきさせ、額に汗をかき落ち着きを失い自分自身におびえる」という描写から、『盗みをした』という罪悪感と『冷たい気持ちと見つけられないか』という不安と恐れを同時に感じている。⑤最後は、『涙かんばんがかりだった』や『繕うことなんか思ってもよらなかった』という描写から『もう元通りにできない』という絶望感に変わった。</p>	<p>根拠となる描写 心のつぶやき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな不幸が起こったかを知った。 『もうどうやっても動揺』 ・泣かんばかりだった。 元に戻すことはできない ・繕うことなんか思ってもよらなかった。 <p>『もうどうやっても元に戻すことはできない』</p> <p>後悔・悲しみ・絶望感</p>	<p>へめあて▽ 第三場面の主人公の心情の変化を根拠を示して説明できる。</p>
---	---	--

○ホワイトボード

絶望感	原文	満足感